

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ(1階)		
所在地	静岡県焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	令和2年 2月 28日	評価結果市町村受理日	令和2年 9月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 7月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「あきらめない」をもとに理学療法士と連携し利用者様一人ひとりにあった個別のプログラムに取り組み機能向上を目指しています。その他、日々の生活の中でできる「テーブル拭き」「食事の準備・片付け」「洗濯干し・畳」など家事活動にも力を入れ、毎週日曜日には利用者さまとメニューを考え食事作りも行っています。
また、利用者様が混乱せず安心して生活していただけるようケアの統一を図り全職員が同じ支援を行えるよう社内研修や機能訓練メニューを写真・文面化しつつも確認し誰でも行えるような取り組みを始めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の一角で迎い側に小学校があり、児童の声が聞こえ高齢者には好立地である。敷地内に駄菓子屋があり、利用者が店番をしている時間帯もあるユニークなグループホームである。力を入れている点として①午前・午後を使いひとり週3回の入浴 ②理学療法士、歯科衛生士、看護師のアセスメントやアドバイスも取り込んだ介護計画作成とモニタリング ③ご家族の希望による看取りケアが挙げられる。そして、全体的に職員が穏やかでゆっくりペースであることも、認知症のある人には良い雰囲気であると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「あきらめない」をもとに、理学療法士との連携にて機能訓練を行い、自宅に帰る事を諦めず支援を行う。	法人理念、今年度目標とスローガンが事務所入口に掲示され、誰もが見えるようになっている。また、スローガンは職員トイレにも貼られ、必ず視野に入る。職員個々の理念に沿った「あきらめないケア」の具体化目標は掲示予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、自治会の祭りに声を掛けて頂き参加できている。日常的に行っている散歩や外気浴にて、地域の方との挨拶を行い交流を図っている。	自治会に加入し地区の草取り公民館の清掃、また神社の秋祭りには利用者も一緒に参加している。事業所の夏祭りには、地域の方が足を運んでいる。事業所の敷地内に駄菓子屋があり、店番をする利用者もいて、日常的にも繋がりがあがる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催を再開を検討している。認知症の理解や支援方法については知識が必要だと感じる。地域の方に興味を持って頂ける試みを行う事を計画し実施する筆よがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行ってきたが、前施設長の退職に伴い、現在は不定期になっているため、3月から定期的に行えるよう調整中。	新型コロナの影響で現在開催されていない。以前は地域包括・中部地区包括・民生委員・自治会長・家族代表で構成し2か月毎に開催。事故報告は今後の対策まで触れている。議事録は玄関に置かれ来訪者が自由に閲覧できるようになっている。	家族参加について、各ユニット1家族の持ち回りで最大参加でも2家族になっている。家族の参加は最初から狭めるのではなく、できるだけ多数の参加が得られる様な工夫を事業所に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し情報交換を行う予定。	介護保険更新申請や区分変更、また事業所内の事故発生時には直接行政に足を運んで報告している。また、制度改正等があった場合には、アドバイスを受けていたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの取り組みとして、介護方法のチェックや身体拘束をしていないか自己点検チェックを定期的に行い職員で話し合いをしている。グレーゾーンと呼ばれているものに対しても今後取り組んでいく。	現在身体拘束者はいない。身体拘束廃止委員会を中心に「日常業務チェックシート」と「自己点検シート」を活用し研修テーマに結び付けたり、職員会議では現場から出た、これらへの疑問について話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にはまだ参加できていない為今後受講し知識や理解を深めていきたい。おかしいと感じるケアについては互いに確認し合い不明点は全職員で話し合いの場を設け改善出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援について学ぶ機会がありました。今後は職員に研修会を開き伝理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	消費税増税にあたり料金改定のお知らせのお手紙を郵送するとともに家族会にて説明し同意を頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて満足度調査を行っている。ご家族様が来所された際には貴重なご意見を頂けている。いただいた意見については改善に努めるため職員で話をしている。利用者様からは日々の関わりの中でご意見を伺うことが出来ている。	敬老会やクリスマス会等の施設行事と抱き合わせで、家族会を年3回開催しその際にアンケート形式の満足度調査を行っている。運営に関する要望はあまり出ないが、個々の要望からソフト食を7月から提供するように改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面接を行い体調面や業務、人間関係について話を聞くことが出来ている。また日々の業務を通じて変化に早く気づくことが出来るように心がけている。	仕組みとしては、年度末に施設長が評価を兼ねた職員面談。また、概ね3か月に1回程度、施設長が声かけし職員と面談し、意見や提案を聞く機会を作っているが、それを待たずとも日常的に意見を言いやすい風通しの良い雰囲気が感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアの統一化に向け業務内容や記録用紙の見直しを行っている。管理職変更に現在アセスサー習得に向け勉強・準備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足により外部研修への参加は出来ない。内部研修についても管理者の変更に伴い現在勉強・準備中のため、昨年12月より出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や他事業所も集まる勉強会に参加し、他事業所の事例を聞きサービス向上に努めている、。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やご利用者様の意見、要望をしっかりと聞いている。ご家族様にもご協力いただきながらホームでの生活に慣れていただくようにゆっくり時間をかけケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の不安とご家族様の心配を少しでも軽減できるよう意向などをしっかりと確認し要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・問い合わせを頂いた際にデイサービスや小規模複合型についても説明させていただきご本人様にあったサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動など職員とご利用者様が協力している。職員が忙しそうにしていると声をかけて下さりご利用者様が率先してお手伝いして下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に爪切りや居室の片付け・活動と一緒に参加して下さるご家族様もいらっしゃいますが届け物をして声をかけ帰ってしまわれる方も多いためご利用者様の意見やホームからのお願いしたい事を伝えていけるようにしたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信教をお持ちの方もおり定期的に集会に参加している。お祝い事などある際はご自宅に戻られたり、食事会に行かれたりと関わりを持つ機会を作って下さっている。	以前入所していた方では、お墓が近くにあり墓参りに事業所から出かけていた。入所後も信教の方が事業所へ迎えに来て、現在も継続して集まりに参加している人もいます。できるだけ関係が途切れないようにしたいと取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や性格の違いにより衝突してしまう方もいるが職員が間に入ったりユニット間で協力し穏やかに過ごしていただけるように支援している。利用者様同士でお互いを気遣い助けあう姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や死去された後もご家族の来所があたり、近況報告の連絡を入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中や担当者会議・家族会などで、本人又はご家族への聞き取りを行っている。意思の疎通が困難な方は全職員から情報を集めて、様子や表情で「思い」を察するようにしている。	家族からの要望は、直接お会いした時に聞くようにしている。ご本人の意向や思いは、連絡ノートと別に意見交換ノート(日々のケアや関りから思いついた疑問、或いは気づき、また取り組んだことを記入する)を活用し、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークではご家族様より今までの生活について聞き取りを実施している。入居されてからは日々の生活の中でご本人様よりお話を伺う機会が多くあり面会時にご家族様より新たな情報をいただけることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や全体会議で情報の共有をし日々の申し送りでは利用者様の状態を細かく観察し全職員が把握し適切なケアが出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全利用者様に担当者がついており一月ごとにモニタリングを実施。毎月のユニット会議では3名の利用者様について時間をかけ協議しケアに反映している。(2月より変更している。)	今まで1回の会議で、9名全員のモニタリングを行っていたが、最後まで話し合いが完結できなかった。管理者の変更に伴い、1回に3名の利用者のモニタリングに変更したことで、他職種との話し合いも密にできるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の様式を変更しケアした全職員が記録に携わり把握出来るようにすることで情報共有や実践に繋がるようにしている。変更直後で様式に慣れておらず記録漏れがあるため課題が残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化により、転倒の危険性が増す場合は、ご家族の協力やご理解のもと居室の変更を行う。変更が不可能な場合には、一時的ではあるが、フロアに畳を用意し柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や地域のお祭りなどへ参加できている。毎月文化祭へ作品の展示をし利用者様の意欲向上に繋がっているため今年度も継続し参加する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による訪問診療を18名中17名が受けている。毎月のご様子をまとめた用紙を提出し協力医へ情報提供している。体調不良時にはすぐに相談できるため適切な対応がとれている。	全員が協力医に診察をしてもらっている。夜間も電話対応が出来る体制になっている。受診時には「観察表」(バイタル、介護支援専門員、看護師が前回の受診時からの日々の様子)を記入して、先生に診てもらうようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職で情報を共有し意見交換をしている。担当看護師が週に3度出勤しているため医療面の指示や助言をもらっている。不在時には電話にて相談し必要に応じ様子を見に来てくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には定期的に本人の様子確認を行っている。また、地域連携室に状態確認の連絡を入れている。退院時には退院カンファレンスを実施し退院後の生活指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議や状態が大きく変化しそうな時は、常に看護師や主治医を交え意向確認を行っている。介護士、看護師以外にも理学療法士、栄養士へ支援依頼をし、チームで取り組んでいる。	昨年度3名の方の看取りを経験している。看取り後の職員への振り返りもしっかりと行っており、職員自身も看取りへの不安はないとのこと。看取り時には家族も一緒に部屋で泊まりが出来るようになっている。	今まで看取り時の同意書等は簡単なものしか用意できていなかったが、現在、看取りに関しての具体的な内容の書式を作成し直しているとのこと。早急に書式が出来ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル対応はあるが、訓練の実施は出来ていない。今後、看護師へ指導、講習を依頼する。また、定期的に行えるように計画を立てる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の法定防災訓練と地域防災訓練を計画。昨年は夜間想定や水害想定などの訓練を行い台風19号接近時には迅速な対応が出来た。地域防災訓練には利用者様数人と参加出来ている。	ハザードマップの水害想定から垂直避難が出来るように訓練している。昨年の台風においても垂直避難がスムーズにできた。備蓄品も2階においてある。停電のリスクに備え、発電機を購入して職員全員が使用できるように訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけを行っている。トイレや入浴の際には、露出を避けるようタオルを掛けている。介護方法のチェック表を用いて、職員の意識の向上に努めている。	個人書面は事務所の鍵のかかる書籍に保管されており、個人情報の保護に気を使っている。トイレなどに誘いをする時は、大きな声で誘わないように、トイレで伝わらない方には、その方にあった声掛けで誘うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方には、自己決定して頂いている。発語ができない方にも、声かけをし、反応や表情から好みであろう物を選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に希望確認を行っている。職員側が優先にならないよう、定期的にチェックを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時には、整容を行っている。入浴後に着る衣類は本人に選択して頂いている。発語ができない方にも、声かけし表情や反応をみて選んでいる。また、ご家族が利用者の好みの服を持参して下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日利用者様と職員でメニューを考え食事作りを行っている。食事の準備、盛り付けは毎日行っている。食器洗いや食器ふき等も日課として行っている。誕生会などでおやつ作りを計画し個々の力に合わせ作業出来ており職員・利用者の楽しみにもなっている。	平日は献立に従って、料理は調理職員が主に行なうが、日曜日は利用者と介護職員で献立を決め、一緒に作っている。食材は事前に厨房にて購入している。フロアーの前のベランダで野菜を作っており、今年、キュウリやトマトを収穫し調理し、みんなで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録にて、食事量と水分量を把握している。また、大きさや固さに注意し、食べやすさや体調に配慮している。ソフト食の導入も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の時に、歯科衛生士による指導を受け、毎食後、口腔ケアを行っている。うがいが上手く行えない方にはウェットティッシュ等を使用し清潔に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導のほかに排泄パターンを把握し日中のオムツゼロ支援を継続して行っている。水分・食事の量も細かく時間でチェックしている。	入居すると24時間チェック表をつけながら、とりあえず布パンツでの生活で様子を見るようにしている。現在ほとんどの方は日中、布パンツにパットで対応できている。ズボンの上げ下げを自分でおこなえるような、声掛けを心がけて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳やヤクルトを提供。厨房職員とも協力しミカンやサツマイモ、ヨーグルトをおやつ時や食事のデザートとして提供し通じ改善をはかっている。機能訓練は毎日実施し理学療法士へも相談通じ改善体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿い入浴できるよう午前午後と入浴時間を設けている。拒否のある方には無理強いをせず翌日に変更したりと入りたいときに気持ちよく入っていただけるようにしている。失禁などで汚れてしまった時には入浴日以外でも入れるようにしている。	美泡湯(泡が出てお湯が動く装置)を使用している。月曜日から土曜日まで週6日の入浴を設け、ひとり週3回の入浴を心がけている。午前、午後と自由に入浴が出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人様に合わせて就寝介助を行っている。浅眠の方には足浴を行い安眠に繋がるよう支援している。不安とうある方にはお話を聞き安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴・現病歴・服薬内容を一覧にいつでも確認できるように薬箱前に張っている。状態の変化や薬の変更があった際は業務日誌や個人記録、状態観察表に記録している。全職員把握出来るよう全体会議でも報告確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員に、役割や日課があり、今できることが、継続出来るよう支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する場所に外出したり、買い物に行っている。また、ご家族と外出されることもあり。地域のイベントや避難訓練にも参加している。	午前中に散歩に行くようにしている。事業所の近くに川が流れており、鯉と鴨を見に行くことを楽しみにしている。職員と1対1で近くにスーパーマーケットやパン屋、用品屋に出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の駄菓子屋で、自分の財布からお菓子を購入している方もいる。お金を持つことで混乱し落ち着いて生活できない方に関しては、必要な時にお金をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者様自身で書いている。書くことが困難な方には書きたい内容を聞き代執している。名前は書ける方もいるのでその方にあつた支援を実施。電話に対してはご要望があればこちらでお掛けしご家族の都合も聞きながら変わるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、整理整頓を行い、日差しが眩しく感じる方や、暖かくて良いと感じる方も居られるため、好みの場所に誘導したり、それぞれの意見を聞くようにしている。季節の花を飾ったり、壁面には、季節感がでるよう工夫している。	共有空間のテーブルや長椅子は、既製品ではなく一枚板で作られたものなど、一つ一つが手作り感あふれる温かみのある雰囲気である。ちぎり絵や折り紙で風鈴を作って季節感を出している。ペランダには花が植えられており利用者と職員が一緒になって水やりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置や、ソファーなどの居場所作りに配慮し、気分にあつた環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具などをお持ち頂、ご本人の生活に合わせた環境作りをしています。また、オムツ類はむき出しにならないよう配慮している。	洋間と畳の部屋があり、利用者個々の状況に合わせて居室を選んでいる。タンスや衣装ケース、テレビを持って来ている。以前には仏壇を持ってきていた方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に張り紙をしをするなど工夫をしている。ペーパータオルも手に届く位置に置き、ご自分で取り出せるようにしている。危険な方に対しては、必ず見守りし、物を近くに置かないよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ(2階)		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	令和2年 2 月 29 日	評価結果市町村受理日	令和2年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「あきらめない」をもとに理学療法士と連携し利用者様一人ひとりにあった個別のプログラムに取り組み機能向上を目指しています。その他、日々の生活の中でできる「テーブル拭き」「食事の準備・片付け」「洗濯干し・畳」など家事活動にも力を入れ、毎週日曜日には利用者さまとメニューを考え食事作りも行っています。
また、利用者様が混乱せず安心して生活していただけるようケアの統一を図り全職員が同じ支援を行えるよう社内研修や機能訓練メニューを写真・文面化しいつでも確認し誰でも行えるような取り組みを始めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 7月 28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			